



# 夏祭り 2017

平成 29 年 8 月 26 日・27 日 (土・日) たくさんの仲手原地域住民の皆さまに支えられ夏祭りが盛大に行われました。今年も昼間の山車曳き、夜の盆踊り・夜店と賑わい、仲手原の夏祭りは人と故郷をつなぐ絆になっています。左のわが町内の地図は子ども達が山車曳きで練り歩いた経路です。1 日目は一丁目、2 日目は二丁目を歩きました。

な か て は ら

第50号

発行  
仲手原自治会



## 山<sup>だ</sup>車<sup>し</sup>

仲手原の夏の風物詩であるお祭りの山車はどのような山車になったのか？知られざる秘話をご紹介します。元自治会長の藤井仁さんに投稿いただきました。



今回は山車について少し話をいたします。現在の仲手原の山車は平成 18 年に西区久保町自治会から頂いた昭和 33 年製の櫓造りの本格式の山車です。しかし古いのでそのままでは曳くことが出来ません。そこで埼玉県の製作者に修理の見積りを頼んだところ、約百五十万円かかると言われ、諦めました。それなら私が少しずつ綺麗にしようと思ひ、まずは前面の鳳凰の彫刻から修理しました。自分でいうのも変ですが思ったより良く出来ましたので調子に乗り此処も其処も 47 日間雨が降っても 1 日も休まず、山車と格闘しました。祭りに子ども達が曳くことが出来るようにとの思いが体力をくれたと思います。祭りの当日、久保町の自治会長及び役員がお祝いにお見えになり、山車が別物になったようだとお世辞にも褒めてくださいました。港北警察署長からも区内最高の山車と言われました。この山車は自治会、子ども達の宝です。今後、手入れを続けてくだされば、なお、長寿な山車となります。今年の夏祭りも無事に終わり、参加された方々に感謝いたします。有難う御座います。

藤井 仁

# 平成29年度 仲手原自治会防災訓練 10・28

## 災害基本台帳に基づく

### 安否確認実施

この日、横浜市で最大震度7の地震が発生したという想定で自治会防災訓練を行いました。今回は初めての試みとして、各班・各組ごとに昨年度作成した災害基本台帳に基づいて住民の安否確認を行うこととし、住民は道路から見える位置にタオルなどを掲げて家族の安全を表示する訓練を行いました。訓練対象とした約2千世帯のうち673世帯(約34%)の方がタオルを掲示していただき、安否確認の訓練をすることができました。



安否確認(タオル)掲示



安否確認結果報告

その後、班長さん組長さんと参加協力いただいた武相高校の生徒さん合計約170名は、消防団関係者の指導・助言のもと、AED使用

時の胸骨圧迫訓練、自動車用ジャッキを使った救出訓練、三角巾の取扱い方法訓練をグループに分かれて順次体験しました。



ジャッキを使った救出訓練



三角巾の取扱い方法訓練

## 横浜市30年以内震度6弱以上の地震発生確率81%

### 地震発生確率81%

政府の地震調査委員会により、横浜市が今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は81%と報告されています。

横浜市では、防災・減災の知識を広く地域に浸透させることを目的として「防災・減災推進研修」に取り組んでいます。研修は、まず自治会役員などに基礎研修を行い、基礎研修を修了した者が属する防災組織にフォローアップ研修を行うものです。

## 救急救命講習 11・11

仲手原南自治会の方々も加えて30名が出席し、救急救命講習が開催されました。

救急車到着までの間(全国平均約9分)に、

救急救命措置をすることがいかに大切かというビデオを見たあと、女性消防団員の指導のもとAEDを使用した心肺蘇生



救急救命講習のようす

## 仲手原自治会の取り組み

### 災害基本台帳の整備

平成28年度に基礎の住民データを収集させていただきました。防災・減災フオロアップ研修実施  
発災時の心構えや準備の研修を行い、知識向上に努めます。

### 自治会防災訓練の実施

地域防災拠点  
訓練に加えて  
自助・共助の  
防災意識の向上を図ります。



をひとりひとり体験しました。三角巾の使い方・扱い方、新聞紙を利用したスリッパの作り方講習がありました。

講習後、港北消防署篠原出張所長から、岸根の武道館で心肺停止になった方が、まわりに居た方の適切な救命措置によって助かった、というお話がありました。

## 篠原地区社会福祉協議会主催

### ひとり暮らし高齢者昼食会 10・31

仲手原と仲手原南の自治会長・民生児童委員を含めて46名の方々が仲手原自治会館に集まりました。

おいしい昼食を召し上がった後は、楽しいビンゴ大会。始まって早々に「ビンゴ!」の声。豪華な賞品に大騒ぎ。興奮が収まったところで、雰囲気が一転してハワイムードになり、フラダンスを観覧して楽しいひとときを過ごしました。



ひとり暮らし高齢者昼食会

# みんながんばりました!



スウェーデン生まれのホッケーのようなスポーツです

です。毎年、篠原地区のユニホック大会は、スポーツ推進委員の協力の下、子ども達は勿論のこと保護者も巻き込んだ地域交流の場となっています。

ユニホックというスポーツを  
ご存知ですか  
篠原地区の子ども会にかかわっていた方々なら、「ああそういえば、ユニホックは小学校の時やっ  
たね。」と、思い出されると思  
います。篠原地区のユニホック大会  
はなんと25年以上も継続して開催  
している大会なのです。そもそも

ユニホックは一般的にはあまり知  
られていないホッケーに似たスポ  
ーツで6人ずつのプレーヤーで相  
手チームのゴールにスティックを  
使ってボールをシュートし、得点  
を競います。1度やってみると楽  
しくて熱中してしまいます。また  
ホッケーとの違いは、防具もつけ  
ませんし、キーパーも置かないな  
ど簡単で、や  
ったことがな  
い方でも誰で  
もすぐに参加  
できるところ  
です。毎年、  
篠原地区のユ  
ニホック大会  
は、スポーツ  
推進委員の協  
力の下、子ど  
も達は勿論の  
こと保護者も  
巻き込んだ地  
域交流の場と  
なっています。



## 篠原地区子供会対抗ユニホック大会 仲手原連合女子優勝




※ボールの速  
さが遅くな  
るように穴  
が空いてい  
る。

### ユニホック大会 6月11日(日) 篠原中学校にて

大会当日はときどき陽が差す、さわやかなユニホック日和となりました。午前9時、篠原地区の6町内会の選手たちが勢揃いし開会式後、直ちに試合開始です。仲手原チームは仲手原南と合同でチーム名を仲手原連合とし、男子A・B2チーム、女子1チームが出場しました。選手は3年生から6年生のあわせて35名。出場チーム1番の大手帯。まずは整列して礼から始まり、選手たちは懸命に走り、スティックを使ってパスも上手にこなしました。白幡小学校の3日間の事前練習が役に立っているのでしょうか。応援も保護者の方々と共にごがんばりました。

大会の試合の方法は、男子7チーム女子6チームの総当たり戦で男子21試合、女子15試合の予選の結果、女子は1位。男子A・Bチームは5位7位と健闘しました。女子は、更に1位×2位の決勝対決で富士塚に勝利し優勝を勝ち取

### 優勝インタビュー

優勝した女子に  
感想を聞きました



りました。冴えたシュートが優勝の決め手でしょう。(男子1位は富士塚)忙しい高学年が大勢出場し、また練習日には小さい子供たちも遊びながら参加するユニホックは子ども達のお気に入りです。是非、子ども会に入ってユニホックをやってみませんか。



- 3日間の練習だけだったけど二人でパスしながらシュートやロングシュートの練習をした。ちゃんとその成果が発揮できた。
- 全勝ではなかったけどうれしい。
- 篠原東のチームに苦戦した。
- 低学年達がすごくうまくて守りをちゃんとやってくれた。次の期待の星がいる。
- 学校も違うお友達と一緒にユニホックができて仲良しになった。
- 練習の時終わった後のお菓子が楽しかった。

# 自治会だより

12月 「なかつはら」第50号発行

自治会館年末大掃除(16日)

「日の出を見る会」(23日)

1月 港北区駅伝大会(7日)

大人のスキーツアー(26~28日)

2月 自治会親睦バス旅行(未定)

3月 新旧役員交代懇親会(3日)

新班長・組長業務説明会(未定)

# 子供会だより

単独行事

1月 節分豆まき大会(28日)

2月 親子スキー教室(23~25日)

3月 卒業・進級祝い

# 3R夢施設見学会 10・4

## 資源循環局鶴見工場を訪問

横浜市の3R夢活動を勉強する為ゴミ焼却場である鶴見工場を役員・委員・班長・他の計36名で見学してきました。最初に係の人よりスクリーン画面により工場の概要と昨年度の3R夢の効果について



3R夢施設見学会(鶴見工場)

ての説明を受けた後、二班に分かれ工場を案内されました。この日は、ゴミ収集車がゴミピットに向けバックで進入、ゴミを投入する現場やゴミクレーンが大きな爪でゴミを焼却炉に入れる作業等を窓越しに見学できました。

平成23年に始まった3R夢プラントとはリデュース(出さない)・リユース(何回も大切に使う)・リサイクル(再生)をモットーに、『横浜を子供達が将来夢を持って住むことができる町にしよう』を目的にしたものです。その成果は大きく、ゴミの減量の結果、6焼却炉工場が4つになり最終処分場の延命化に大きな効果を発揮しています。ゴミについての新たな思いをした一日でした。

# さんま祭りの開催 10・14

横浜市内で「さんま」を焼いて

東日本大震災の復興支援活動をおこなっている横浜南部市場の有志の皆様のご協力を得て、「さんま



さんまの焼き上がりを待つ人々

祭り」を開催いたしました。小雨交じりの天候でしたが、用意した500本程の「さんま」は一時間弱でなくなりました。

お預かりした募金は「愛と勇気とさんま実行委員会」から女川町に寄付されます。来年は更に数を増やし盛大に開催したく計画いたしますのでお楽しみに。

# 仲手原二丁目公園・広場公園

## 愛護会について

公園愛護会会長 井上禮子

昭和61年6月に公園が完成致しました。そこで「ゲートボール」をさせていただくという事で「仲手原ことぶき会」が清掃をする事になりました。その頃は自治会に老人会が二つあり、毎日曜日に交代で清掃をしておりました。

そのうちに「公園愛護会」という名前ができ、その会長に老人会会長が兼務する事になり、三代目は現在会長をしております私・井上となっておりま。公園の清掃を始めて30年位になり、時代の変化と共にやり方・日程と変わってまいりました。公園の使用団体も「ゲートボール」だけでなく「グラウンドゴルフ」も使用する事になり

ました。そして現在は使用する前に二つの団体に清掃をしていただき、愛護会としては、月に第一・第三日曜日、朝8時~9時までの一時間約20名位の方が参加しており、老人会の人達だけでなく一般の方も参加しております。

四季折々の花も咲き、小さいお子さんからお年よりまで多くの方の心を癒してくれる所であり、若い人達の運動の場所でもあり、仲手原自治会ではイベントの絶好の場所となっております。

ておりま す。これからも多くの方々に気持ち良く活動していただける様に、清掃に励んでいきたいと思っております。

愛護会の皆様には感謝致します。

# 編集スタッフ

伊東美奈子・植木幹造・江村清・押尾泰典・三宅博久・宮田純子・和田恵美子・編集責任者―中村泰雄



公園愛護会